

技術・家庭科における問題解決的な学習の質を向上させる授業づくり

—GIGA 端末を活用した学習過程の充実—

技術・家庭科研究会議

研究員 住吉 巧 (川崎市立西高津中学校)

長岡 大貴 (川崎市立有馬中学校)

廣瀬 春希 (川崎市立南加瀬中学校)

吉弘 聡美 (川崎市立東橋中学校)

指導主事 岡田 智弘 川城 晴奈

I 主題設定の理由

1 研究の背景

技術・家庭科の目標を実現するためには、生徒自らが生活や技術に関心をもち、実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が生活の自立につながるように活動を組み立てることや、「生徒の実態に応じた内容や活動を準備し、自ら問題を見いだして課題を設定し解決を図る問題解決的な学習を一層充実させることが重要である」¹とされている。また、令和7年に中央教育審議会教育課程企画特別部会が示した「論点整理」では、「主体的・対話的で深い学び」の実装は、次期学習指導要領に向けた第一の方向性であり、「現行学習指導要領が目指している『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図る」²としており、引き続き継続的な授業改善が求められている。

2 本市の技術・家庭科の課題と主題設定

本研究会議では、本市が令和4年度に行った研究³（以下、令和4年度研究）のアンケート調査をもとに、令和7年4月に本市で技術・家庭科を指導する教員を対象に同様のアンケート調査を行った。

その結果、技術分野、家庭分野ともに、令和4年度研究の成果を受けて授業改善が進んでいる傾向が見られた一方で、新たな課題や継続的な課題があることが示された（表1）。

本市の技術・家庭科の課題としては、技術分野では、身に付けたことを生活や社会における課題解決に生かす学習活動

表1 市内で技術・家庭科を指導する教員を対象としたアンケート調査

や、自分の考えを深めたり広げたりする学習活動に新たな課題が見られ、家庭分野では、学習活動を振り返って実践を評価・改善する学習活動に新たな課題が見られるとともに、見方・考え方を働かせながら、問題を見い

	質問項目	調査年度	そう思う	ややそう思う
技術分野	1. 前年度、技術分野の授業において、生徒が、技術分野で身に付けたことを、生活や社会における課題の解決に生かすことができるような学習活動を取り入れましたか。	R 4 (n=51)	25.5% (13)	60.8% (31)
		R 7 (n=39)	7.7% (3)	69.2% (27)
	2. 前年度、技術分野の授業において、生徒が、自分の考えを深めたり、広げたりする学習活動を取り入れましたか。	R 4 (n=51)	29.4% (15)	47.1% (24)
		R 7 (n=39)	17.9% (7)	76.9% (30)
家庭分野	1. 前年度、家庭分野の授業において、生徒が、学習の過程を振り返って実践を評価・改善できていたと思いますか。	R 4 (n=46)	21.7% (10)	71.7% (33)
		R 7 (n=42)	16.7% (7)	64.3% (27)
	2. 前年度、家庭分野の授業において、生徒が、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして課題を設定し解決策を考える学習活動を取り入れましたか。	R 4 (n=46)	13.0% (6)	65.2% (30)
		R 7 (n=42)	11.9% (5)	64.3% (27)

¹ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編」P.17（平成29年7月）

² 文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（令和7年9月25日）

³ 川崎市総合教育センター技術・家庭科研究会議「『主体的・対話的で深い学び』を実現する技術・家庭科の授業づくり —GIGA 端末を活用した学習指導を通して—」（令和5年3月）

だし課題を設定し解決策を考える学習活動については継続的な課題が見られた。

そこで本研究会議ではこれらを踏まえ、本市の生徒たちが、自ら生活や社会における課題を解決していくことができるように、他者との協働的な学びを通して自らの考えを広げたり、自らの学習過程を振り返って学習を自己調整したりしながら、問題解決的な学習活動を一層充実させていくことができる学習過程について研究を進めていく必要があると考えた。また、令和4年度研究において、GIGA 端末を活用した学習指導が「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に効果的であると示されたことから、本研究会議においても GIGA 端末を積極的に活用し、生徒自らが問題解決的な学習の学習過程を充実させていくための手立てとすることとした。

以上のことから、本研究会議では研究主題を右のように設定することとした。

技術・家庭科における問題解決的な学習の質を向上させる授業づくり
—GIGA 端末を活用した学習過程の充実—

II 研究の内容

1 研究の方法

研究員の所属校において生徒に技術・家庭科に関するアンケートを行い、その結果を踏まえた上で検証授業を4校で行い、教師が問題解決的な学習を一層充実させる授業づくりとして用いた手立てが有効であったのかといった考察を行うこととした。なお、本研究会議では、問題解決的な学習の学習過程において、生徒が GIGA 端末を効果的に活用しながら試行錯誤する姿を、生徒自身が問題解決的な学習の質を高めている姿とすることとした。また、令和4年度研究と同じく、検証授業後に生徒へ再びアンケート調査を行い、検証授業における生徒の活動を分析するだけでなく、アンケート結果からも、生徒が問題解決的な学習の質を向上させることができたのかといったことを考察することとした。

2 検証授業

(1) 検証授業1

技術分野 題材名：「現在の生活の中から収納に関する問題を見いだして解決しよう」

①生徒の実態と本題材における手立ての工夫

A中学校の生徒の実態把握のために4月に実施したアンケート調査では、89%の生徒が「技術分野の授業は大切だ」と考えていることが分かった。一方で、「技術の授業で学習したことを普段の生活で活用できないかと考えますか」という質問に対しては、「当てはまる」と回答した生徒は24.6%に留まった。このことから、本市の技術・家庭科が抱える課題と同様に、技術分野で身に付けた資質・能力を、普段の生活や社会における問題解決に結び付ける点に課題があると考えた。

そこで、クラウド環境を生かして GIGA 端末で他者と関わりながら学習活動を進めたり、学習活動の振り返りや制作活動の記録をデータで蓄積したりできるようにして、生徒が技術分野の授業を通して身に付けた資質・能力をより実感できるように工夫をした。またこうすることで、生徒自身が多様な情報に触れながら、生活や社会における問題解決のために、他者の情報を参照しながら自らの活動を調整して、問題を見いだして課題設定に取り組むことができると考えた。

②検証授業の概要

ア 授業のねらい

GIGA 端末で作成した設計図をもとに、他者と情報共有をしながら問題解決に必要な製作をする。

イ 授業の流れ

生徒は生活の中から見いだした問題を解決するために自らが設定した課題や、課題解決を実現す

るための設計図、さらには、これまでの学習過程の振り返りの記述などを授業の初めに GIGA 端末で確認し、本時の学習活動の見通しや目標を立ててから製作活動に取り組む。

③生徒の GIGA 端末活用場面

ア Google スライドに本時の目標や学習の振り返り、製作活動の記録を蓄積する。また、必要に応じてクラウド上で共有されたそれらの情報をもとに他者参照を行う。

イ 製作活動の参考となる動画のリンクを掲載した Google スライドを、必要に応じて確認する。

ウ コンピュータ支援設計ソフトウェア（以下、3DCAD）を用いて構想を具体化し、製作の途中でも組み立て図や部品図を確認したり、修正したりする。

④授業の様子

生徒は授業の初めに、自分が何の問題を解決するかを確認し、その情報を他者と共有しながら、Google スライドに記録してある自分の進捗状況を振り返ったうえで本時の学習活動の見通しや目標を立てていた。実習開始後は、製作活動のポイントや今後の製作工程を確認しながら、自ら立てた見通しに沿って学習活動を進めていた。また、必要に応じて参考動画を参照し、工具の使い方等を確認している姿もあった。さらに、仮組立をする際には、設計の場面で作成した 3DCAD と見比べながら、自分の問題を実際に解決できる製品になっているのかを確認したり、製品の変更が必要だと気づいた生徒は 3DCAD を修正したりする姿が見られた（図 1）。作業後は本時の製作活動を振り返り、Google スライドに次の活動に向けた記述をしていた（図 2）。



図 1 製作中に GIGA 端末で設計図を確認する姿

〈3〉切断【目安：2時間】		アクティブなスライドは一番↑へ！	
切断のチェックポイント (○)切断線(仕上がり寸法線の外側)をまっすぐ直角に切断している (○)木材が欠けることなく、最後まで切断できている		完了記録(写真)	
日付	今日の目標	取組内容の振り返り	取組の振り返り
9月24日	切断に入る	目標に対してできなかったこと、次週に取り組みたいこと	どのように取り組んだか、参考になった友達や先生の考え、資料など
10月6日	切断に今度こそ入って1枚完成する。	切断には入ることができなかったけどケガキを先非と協力して完成することができました。	前までは木が足りなくて悩んでいたけど無事ケガキを完成したからよかった。次は切断なので後後をしないうちに気を付けなければならない。
10月8日	切断を終わらせる。	切断が入って1枚完成することができました。そして切断方法がわかりました。	切り終わったあとに友達と話し合う場面を友だちから「脚えようか？」といってもらえた。
		切断が終わってヤスリがけに入った。ヤスリがけは1枚しかおぼらなかったです。	ヤスリがけを強くやりすぎると割ったのが割れてしまおうから、これからヤスリがけをするときにはこの事を気をつけてやっていきたいです。

図 2 GIGA 端末に生徒が入力した製作活動の振り返り

⑤考察

年度当初と本題材後の 11 月に実施したアンケートを比較した結果、「技術の授業で学習したことを普段の生活で活用できないかと考えますか」という質問項目において、肯定的な回答の割合に統計的な有意差を伴う向上が見られた（図 3）。この要因として考えられることは、生徒が製作活動の途中においても自らの設計図を見直したり、必要に応じて修正を行ったりするなど題材を通して常に試行錯誤を繰り返して、生活の中にある収納に関する問題を解決しようとしたことができた点である。

このことから、本題材への手立てとして GIGA 端末を用いたことが、自らの学習過程の評価と修正を繰り返しながら生活や社会における問題を解決する学習活動を充実させるのに効果的であったと考える。

一方で、題材終了後においても 23.8%の生徒が依然

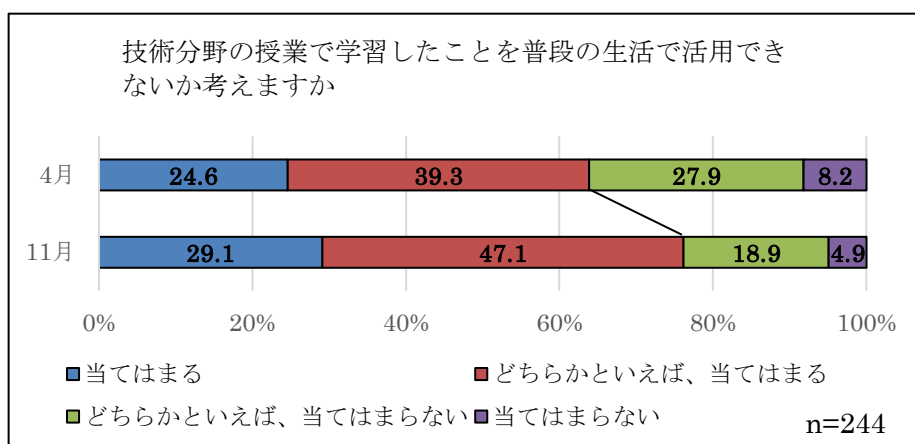


図 3 題材前後に行った生徒へのアンケート調査の結果

として消極的な回答に留まっていたという課題も明らかになった。今後はこうした生徒たちにも他者と情報共有を行いながら、自らの考えを広げていくことの効果をより実感させる必要があると考える。

(2) 検証授業 2

技術分野 題材名：「身の回りや社会に役立つ回路図を考えて問題解決しよう」

①生徒の実態と本題材における手立ての工夫

B中学校の生徒の実態把握のために6月に実施したアンケート調査では、「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできましたか」という質問に対して「当てはまる」と回答した生徒は38.8%に留まり、本市の技術・家庭科が抱える課題と同様に、多くの生徒が話し合いを学びの充実として実感できていない傾向があると考えた。

そこで、クラウド環境を生かして GIGA 端末で他者参照できる環境を整え、身近な生活や社会で使われている電気回路に込められた製作者の意図やその回路図の工夫を読み取る学習活動の場面などで、他者の意見を直接聞くだけでなく、他者の資料を参照しながら話し合うことができるように工夫した。また、このような手立てをすることで、生徒は話し合い活動を通して既存の技術について理解を深めるだけでなく、課題設定の場面や製作活動の場面においても、他者との協働的な学びを通して自らの考を深めたり広げたりして、自らの問題解決的な学習を一層充実させることができると考えた。

②検証授業の概要

ア 授業のねらい

GIGA 端末で他者参照を行いながら話し合い、生活や社会に役立つ回路図を考える。

イ 授業の流れ

生徒は電気回路に必要な部品の性質についての理解を深めるために、それらの部品を使用した簡単な回路図を、例を参考にして作成する。その後、身に付けた知識及び技能を活用して、生活や社会にある問題を見いだして課題を設定し、その課題を解決するための回路図をグループで考える。その際、Google スライドを用いた問題解決シート(図4)に課題解決の案を入力し、グループ内で考えを共有する。また、回路図を設計した後に、学級全体で共有できる Google スプレッドシートに学習活動の振り返りを各自が記入をする。

図4 授業で使用した問題解決シート

③生徒の GIGA 端末活用場面

ア 自分の考えを深めたり広げたりするために、他者の考えを参照する。

イ 生活や社会にある問題を解決するための電気回路の構想を整理する。

ウ 学習活動後に、自らの振り返りを Google スプレッドシートに入力して学びを蓄積する。

④授業の様子

生徒は授業の初めに、GIGA 端末で蓄積している学習活動の振り返りの記述を読んで前時とのつながりを確認したり、本時の見通しを立てたりしていた。また、前時に行った抵抗器やダイオード、LED といった電気回路の設計に必要な基本的な部品の性質を確認し、本時の学習活動に必要な知識を確認していた。その後、生活や社会の中から問題を見いだして課題設定を行い、その課題を解決する電気回路を考える場面では、前時に行った既存の技術を理解する学習活動の内容を踏まえて、どのような電気回路が課題解決に有効であるか、他者との話し合い活動を通して新たな構想に触れるだけでなく、

既存の技術から学んだことを振り返ったりしながら試行錯誤する姿が見られた。そして、本時の終わりでは Google スプレッドシートに、他者との話し合い活動を通して自らの考えがどのように深まったのかといったことを整理する姿が見られた。

⑤考察

検証授業後の11月に行ったアンケートでは、「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできましたか」という項目において、「当てはまる」と回答した生徒が55.2%に大きく向上した(図5)。また、生徒の学習活動の振り返りの記述にも「他人の意見を見ることができ、自分の考えを深めたり広げたりできるので、授業が分かりやすい」と記入していた生徒がいたことから、話し合い活動の場面でGIGA 端末を用いて他者参照ができる環境を整えたことは、新たな考えに触れながら自らの考えを深めたり、他者の資料を通して考えを広げたりすることに有効であったと考える。

さらに、回路図を設計した後の製作活動の場面においても他者参照をしながら試行錯誤をする姿が見られたことから、GIGA 端末を用いて多様な考えや過去に学習したことに触れる機会が増えることは、問題解決的な学習を一層充実させるために有効な手立てであったと考える。

一方で、複雑な電気回路に必要な部品の性質を理解したり、回路図を新たに設計したりすることを困難としていた生徒もいたことから、GIGA 端末も活用しつつ、一人一人の実態に応じた個別の支援も丁寧に行っていく必要があることを改めて実感した。

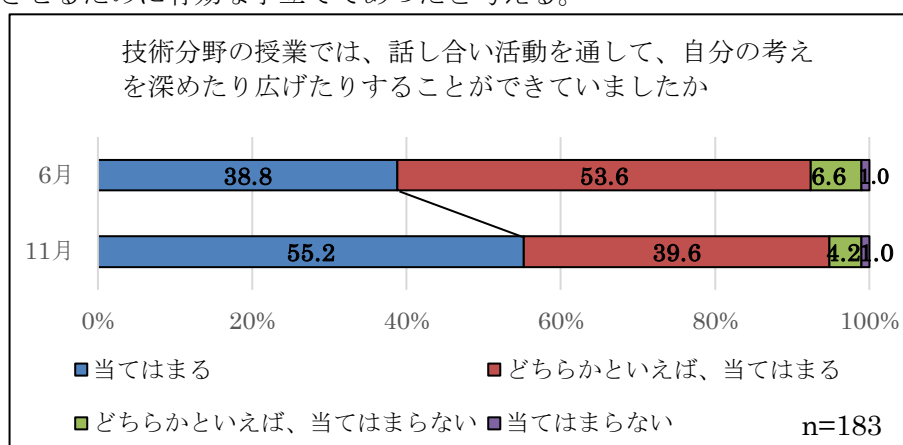


図5 題材前後に行った生徒へのアンケート調査の結果

(3) 検証授業3

家庭分野 題材名：「幼児の成長を知り、幼児と触れ合おう」

①生徒の実態と本題材における手立ての工夫

C中学校の生徒の実態を把握するために4月に実施したアンケート調査では、「家庭分野の授業では、学習の過程を振り返って実践を評価し改善策を検討することはできていますか」という質問に対して、28.5%の生徒が「当てはまらない」もしくは「あまり当てはまらない」と回答した。この結果から、本市の技術・家庭科が抱える課題と同様に、問題解決的な学習の過程を振り返って実践を評価し改善策を検討することに課題があると考えた。

そこで、幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解する場面や、幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する場面などで、クラウド環境を生かしてGIGA 端末を活用して学習活動の見通しをもって課題解決に取り組んだり、多様な情報に触れたりすることで改善策を充実させることができるようにした。またこうすることで、生徒が自らの学習の過程を振り返りながら実践を評価・改善して、幼児とのよりよい関わり方について具体的に考えながら、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成していけるようにした。

②検証授業の概要

ア 授業のねらい

幼児の心身の発達に応じた関わり方について課題を設定し、解決方法を検討して計画を立てる。

イ 授業の流れ

生徒は幼児と触れ合う活動の際の年齢グループごとに、個人で考えた関わり方の目標を共有する。自分たちが触れ合う幼児の発達や生活の特徴を踏まえ、幼児に応じた関わり方を考えながら、グループで遊びの計画を立てる。

③生徒の GIGA 端末活用場面

ア Google スライドを活用して、学習活動の見通しをもったり、学習の過程を振り返ったりしながら、課題解決の方法を自ら計画する。また、必要に応じてクラウド上で他者参照を行う。

イ Google スライドを活用して、発達段階のフローチャートを共同編集する。URL を紐付けた授業用の Google スライド (図 6) を活用して、必要に応じて学習活動のポイントやこれまでに蓄積した学習を振り返る。

ウ 教科書の動画へのリンクや、0～5 歳児の発達段階の特徴が整理された資料へのリンクを掲載している「情報センター」と称した資料を必要に応じて活用する。

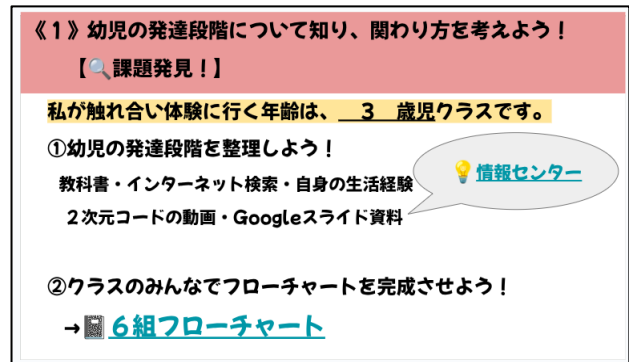


図 6 授業で活用したスライド

④授業の様子

生徒は授業の初めに、前時で学んだ「言葉・運動機能・社会性の発達」の3つの視点を確認し、その視点をもとに自分自身が立てた幼児との関わり方の目標を、グループ内で共有した。その後、グループごとに幼児と触れ合う活動として行う遊びの計画を立てたが、その際には、前時に活用した発達段階のフローチャートや「情報センター」の資料の内容を確認しながら話し合う姿が見られた。また、検証授業後に行ったロールプレイングにおいても、参考となる資料を活用しながら、グループごとに幼児との関わり方を工夫しながら活動する様子が見られた。

これらの学習活動を通して生徒は、自分の幼児との関わり方を評価・改善し、以前に設定した課題と、実際に幼児と触れ合う活動を通して得られた新たな自分の考えとを比較して、幼児の発達段階に応じた新たな課題を設定したり、よりよい関わり方について試行錯誤したりしていた。

⑤考察

題材後の12月に行ったアンケート調査では、「家庭分野の授業では、学習の過程を振り返って実践を評価し改善策を検討することはできましたか」の質問において、肯定的な回答をした生徒の割合が91.1%に向上した(図7)。

このことから、幼児の心身の発達に応じた関わり方の学習活動において GIGA 端末を活用して必要に応じて参考となる資料を参照することができることは、自らの学習の過程を振り返り、実践を評価・改善して、新たな問題解決に向けて自己調整しながら主体的に学習に取り組んでいく態度を充実させることに有効であることが分かった。

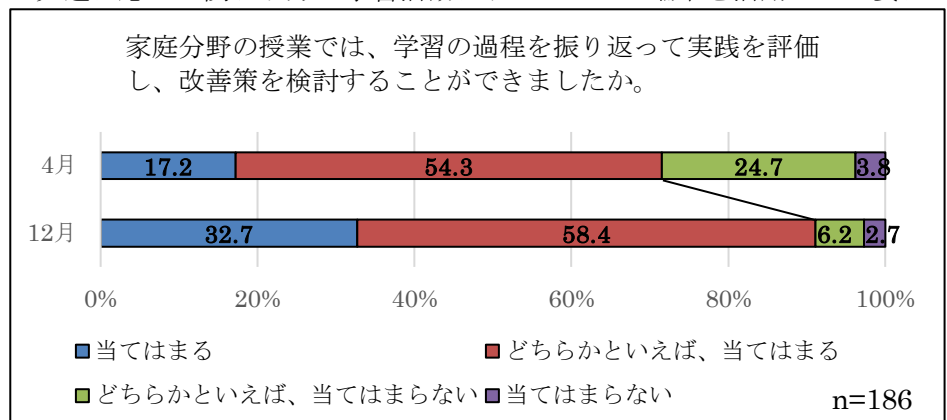


図 7 題材前後に行った生徒へのアンケート調査の結果

一方で、GIGA 端末を活用して学習過程を振り返ったり、新たな改善策を考えたりすることが難しい生徒については、生徒同士の学び合いを通して学習過程を充実できるように支援する必要があった。

(4) 検証授業 4

家庭分野 題材名：「自立した消費者としての責任ある消費行動を考え工夫しよう」

①生徒の実態と本題材における手立ての工夫

D 中学校の生徒の実態を把握するために4月に実施した生徒アンケート調査では、家庭分野の学習について 98.3%の生徒が「将来、社会に出たときに役に立つ」とその重要性を高く認識していることが明らかとなった。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」生徒も 88.9%に上るなど、生徒が家庭分野の学習に対して高い学習意欲を示していることがうかがえた。しかしながら、「自分の考えを話したり、質問したりする」活動への肯定的回答の割合は 52.1%に留まっており、他者と対話したり協働したりする中で自らの課題を明確にし、考えを深めたり広げたりすることには課題があると考えた。

そこで、クラウド環境を生かして GIGA 端末で他者参照できる環境を整え、他者との話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりしやすくするように工夫をした。また、本市の技術・家庭科が継続的に抱えている課題である生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、問題を見だし課題を設定し解決策を考える学習活動の場面においてもこの手立てが有効であると考え、検証授業は、課題設定の場面で行うこととした。

検証授業では身近な話題から自らの消費行動を見直すことができるように、家庭での調べ学習とした「ライフリサーチ」⁴の記録をクラウド環境で共有し、課題設定の場面で他者参照しながら話し合い活動を行うこととした。これにより、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造する実践的な態度を着実に育成することができると考えた。

②検証授業の概要

ア 授業のねらい

自立した消費者としての消費行動について、問題を見だし解決策を考える。

イ 授業の流れ

生徒が事前に調べた買い物の失敗談を GIGA 端末で共有し、その経験談を参考にしながら、自立した消費者として、問題を見だし課題を設定するプロセスを重視する。生徒は設定した課題に対して、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら解決策の構想を深め、Google スプレッドシートに自分の考えを入力した後、グループやクラス全体で考えを共有する。生徒は、他者の考えを参照しながら、自らの解決策を再検討し、思考を深める。また、学習活動の終わりには、本時の学習内容を振り返り、課題解決に向けた実践活動を家庭で行うための見通しをもつ。

③生徒の GIGA 端末活用場面

ア GIGA 端末で目標を確認したり、学習活動の見通しを立てたりする。

イ Google スプレッドシート (図 8) に、買い物の経験談や課題解決の構想を共有し、他者参照する。

ウ 自らの振り返りを Google スプレッドシートに入力し、自身の学びを蓄積する。

買い物での失敗談	課題を設定する	解決方法の検討と計画
通販で服を買ったら、思ったネットで洋服を買った時、写真でしかみられなくて、買った後、実際に届いたら糸がほつれそうになっていた。	通販で物を買うときに失敗しないようにするに 初めてのサイトではあまり重要なものは買わず、重要なものは今までにずっと使っていたサイトなど安心してどこで買う。	詳細(サイズ表記や使われている素材)や実際にできるだけ何度も利用しているサイトで買い物をする。何度も利用しているサイトでも、本当に安心できる商品なのか、口コミなど他人の意見もみでみる。
買ったときは良かったけどほとんど使わなくなった買った買ったときにお金が足りなかった	買う時に流れて買うのではなくしっかりと使うかを考えて購入する。自分の所持金をしっかりと見てからものを購入する	毎回遊びに行くときに財布を確認してお金がなかったら追加して遊びに行く。事前にしっかりと調べてから買うかを検討する。
①買って間もないうちに値下がっていることを知った ②そのときはほしいと思いきい買ったものの、殆ど使わなかった	①ほしいと思ってすぐに買ってしまった ②商品のことをよく調べることなく、実際に向いて使うのかも定まらないうまま買ってしまった →①と②少し似てる??	①ほしいと思っただけで買わず、売り切れてしまわない程度に待って、タイミングを見る ②①と同様、はっと見て買うのではなく、本当にそれが必要か、いつどんなときに使うのかよく考えてから買うようにする

図 8 経験談を入力する Google スプレッドシート

⁴ 本市の技術・家庭科家庭分野では、生活に関する事前調査を「ライフリサーチ」として授業前に行っている。

④授業の様子

生徒は Google スプレッドシート上で、問題解決のために設定した課題やその解決策を共有しながら協働的に話し合いを進める一方で、自分が入力した情報と他者が入力したライブラリサーチなどの内容を積極的に見比べるなど、他者参照をする行動が随所に見られた(図9)。この他者参照を通して生徒たちは、消費生活に関する多様な視点に気付き、自身の解決策の再検討に役立てたり、考えを広げたり、深めたりしながら試行錯誤を繰り返す様子が見られた。



図9 生徒が他者参照している様子

⑤考察

検証授業後の12月に行ったアンケート調査において、GIGA 端末の活用により「自分の考えを深めたり広げたりすることができた」と肯定的に回答した生徒の割合が77.1%から88.1%へと11ポイント向上した(図10)。このことから、GIGA 端末を活用した話し合い活動は生徒の思考を質的に向上させ、他者と対話したり協働的に学習活動を進めたりする中で効果があったと考える。また、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら課題解決に向かうことにも効果が見られたと考える。

一方で、GIGA 端末に入力された情報のみで自分の考えを再構築しようとしていた生徒もいたため、直接話し合う活動の充実も大切だと改めて実感をした。

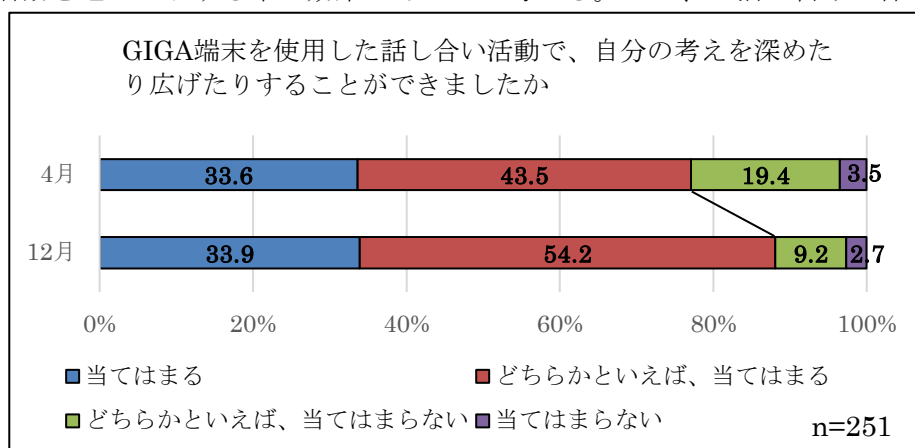


図10 題材前後に行った生徒へのアンケート調査の結果

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

4校の検証授業ではそれぞれ、生徒がクラウド環境を活用した GIGA 端末を効果的に活用しながら、既習や資料などを何度も確認したり、他者参照を通して自分の考えを深めたり広げたりするなど、生徒の学習の状況に応じて、問題解決的な学習の学習過程の各段階間を往来しながら試行錯誤をしていた。また、各校で行った事後アンケートにおいて、多くの生徒が肯定的な回答をしていたことから、GIGA 端末を学習過程の充実の手立てとして活用していくことは、本市で技術・家庭科を担当する教員が抱える課題解決に見通しをもたらすとともに、生徒が授業を通して、問題解決的な学習を質的に向上させていく要素になり得るものと考えられる。

2 今後の課題

各分野の学習内容に対して、生徒の生活経験や既習内容の理解に差があることなどから、どのような指導が適切であるのか、また、生徒によっては GIGA 端末から得られる情報だけでは問題解決的な学習を充実させることが困難な場合もあることから、より一層丁寧に、生徒の実態に応じた個別の支援を行っていくことが課題であると考えられる。さらに、どのように生徒の試行錯誤を促したり、場面設定を行ったりしていくことが、生徒が生活や社会における新たな問題を解決する際に必要な資質・能力の育成に効果的であるのかといったことを検証していくことが課題であることが見えてきた。